

平成 11 年 3 月期 連結決算短信

平成 11 年 5 月 21 日

上場会社名 神鋼電機株式会社

コード番号 6507 上場取引所 東 大 名 1部 2部 外国部 京 広 福 新 札

本社所在地 東京都江東区東陽7丁目2番14号

問合せ先 責任者役職名 総務主管部長

氏 名 二宮武史

TEL 03-5683-1112

連結決算取締役会開催日 平成 11 年 5 月 21 日

1. 11 年 3 月期の業績 (平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 3 月 31 日)

(1) 経営成績 (注) 百万円未満切捨て

| | 売上高 (対前期増減率) | 営業利益 (対前期増減率) | 経常利益 (対前期増減率) |
|--------|----------------|---------------|---------------|
| | 百万円 % | 百万円 % | 百万円 % |
| 11年3月期 | 81,731 (△17.3) | △1,431 (—) | △3,056 (—) |
| 10年3月期 | 98,854 (△4.7) | 1,622 (—) | △97 (—) |

| | 当期純利益 (対前期増減率) | 1株当たり 当期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 | 株主資本 当期純利益率 | 総資本 経常利益率 | 売上高 経常利益率 |
|--------|----------------|----------------|-----------------------|----------------|--------------|--------------|
| | 百万円 % | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 11年3月期 | △3,274 (—) | △22 40 | — | — | — | — |
| 10年3月期 | △337 (—) | △2 31 | — | — | — | — |

(注) 持分法投資損益 — 百万円 (前期) — 百万円)

(2) 財政状態

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|--------|---------|--------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 11年3月期 | 106,220 | 8,179 | 7.7 | 55 97 |
| 10年3月期 | 114,084 | 11,332 | 9.9 | 77 55 |

(3) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 9 社
 非連結子会社数 6 社 (うち持分法適用会社数 0 社)
 関連会社数 8 社 (うち持分法適用会社数 0 社)

(4) 会計処理の方法等の変更

① 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結(新規) 1 社 持分法(新規) 0 社
 (除外) 2 社 (除外) 0 社

② 会計処理の方法の変更 有 無

2. 12 年 3 月期の業績予想 (平成 11 年 4 月 1 日 ~ 平成 12 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|--------|--------|-------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 12年3月期 | 81,100 | 1,600 | 250 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益(連結) 1円 71 銭 (単独) 1円 37 銭

[参考] 当社(単独)の 11 年 3 月期の業績 (平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 3 月 31 日)

| 売上高 (対前期増減率) | 営業利益 (対前期増減率) | 経常利益 (対前期増減率) | 当期純利益 (対前期増減率) | 1株当たり 当期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 | 総資産 | 株主資本 |
|----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|-----------------------|---------|-------|
| 百万円 % | 百万円 % | 百万円 % | 百万円 % | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | 百万円 |
| 70,387 (△18.9) | △1,213 (—) | △2,707 (—) | △2,852 (—) | △19 52 | — | 103,600 | 9,481 |

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| | 前 期 (平成10. 3. 31現在) | 当 期 (平成11. 3. 31現在) | 増 減 |
|----------|------------------------|------------------------|----------|
| 流動資産 | 91,739 | 78,894 | ▲ 12,844 |
| 現金 | 13,901 | 13,862 | ▲ 39 |
| 受取手形、売掛金 | 42,502 | 32,699 | ▲ 9,802 |
| 棚卸資産 | 30,286 | 27,827 | ▲ 2,458 |
| その他の金 | 5,429 | 4,758 | ▲ 671 |
| 貸倒引当金 | ▲ 380 | ▲ 253 | 127 |
| 固定資産 | 21,903 | 26,725 | 4,822 |
| 有形固定資産 | 16,043 | 22,158 | 6,114 |
| 無形固定資産 | 96 | 91 | ▲ 4 |
| 投資等 | 5,762 | 4,474 | ▲ 1,287 |
| 繰延資産 | 441 | 599 | 158 |
| 資産合計 | 114,084 | 106,220 | ▲ 7,864 |
| 流動負債 | 88,367 | 80,072 | ▲ 8,294 |
| 支払手形、買掛金 | 26,115 | 17,307 | ▲ 8,808 |
| 短期借入金 | 54,021 | 54,405 | 384 |
| その他 | 8,230 | 8,360 | 129 |
| 固定負債 | 14,363 | 17,927 | 3,564 |
| 長期借入金 | 13,678 | 13,253 | ▲ 425 |
| その他 | 684 | 4,674 | 3,989 |
| 為替換算調整勘定 | 20 | 39 | 18 |
| 負債合計 | 102,751 | 98,040 | ▲ 4,711 |
| 資本金 | 9,701 | 9,701 | - |
| 資本準備金 | 2,555 | 2,555 | - |
| 欠損金(▲) | ▲ 924 | ▲ 4,077 | ▲ 3,153 |
| 自己株式 | ▲ 0 | ▲ 0 | 0 |
| 資本合計 | 11,332 | 8,179 | ▲ 3,152 |
| 負債及び資本合計 | 114,084 | 106,220 | ▲ 7,864 |

(注)連結財務諸表規則等の一部改正に伴い、前期についても改正後の表示区分に組み替えている。

連結損益及び剰余金結合計算書

(単位:百万円)

| | 前 期 (平成9.4.1～平成10.3.31) | 当 期 (平成10.4.1～平成11.3.31) | 増 減 |
|--------------|----------------------------|-----------------------------|----------|
| 売 上 高 | 98,854 | 81,731 | ▲ 17,123 |
| 売 上 原 価 | 75,048 | 62,436 | ▲ 12,611 |
| 販売費及び一般管理費 | 22,184 | 20,726 | ▲ 1,457 |
| 営 業 利 益 | 1,622 | ▲ 1,431 | ▲ 3,054 |
| 営 業 外 収 益 | 604 | 351 | ▲ 253 |
| 受取利息・配当金 | 128 | 105 | ▲ 22 |
| 雑 収 益 | 476 | 246 | ▲ 230 |
| 営 業 外 費 用 | 2,325 | 1,976 | ▲ 349 |
| 支払利息・割引料 | 1,424 | 1,369 | ▲ 54 |
| 雑 損 失 | 900 | 606 | ▲ 294 |
| 経 常 損 失(▲) | ▲ 97 | ▲ 3,056 | ▲ 2,958 |
| 特 別 損 失 | 53 | 95 | 42 |
| 有価証券評価損 | — | 95 | 95 |
| 子会社整理損失 | 53 | — | ▲ 53 |
| 税引前当期純損失(▲) | ▲ 151 | ▲ 3,151 | ▲ 3,000 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 186 | 122 | ▲ 63 |
| 当 期 純 損 失(▲) | ▲ 337 | ▲ 3,274 | ▲ 2,937 |
| 欠損金期首残高(▲) | ▲ 402 | ▲ 924 | ▲ 522 |
| 欠 損 金 減 少 高 | — | 121 | 121 |
| 子会社の合併に伴う | | | |
| 欠 損 金 減 少 高 | — | 121 | 121 |
| 欠 損 金 増 加 高 | 185 | — | ▲ 185 |
| 連結子会社の増加に | | | |
| 伴う欠損金増加高 | 185 | — | ▲ 185 |
| 欠損金期末残高(▲) | ▲ 924 | ▲ 4,077 | ▲ 3,153 |

(注)連結財務諸表規則等の一部改正に伴い、前期についても改正後の表示区分に組み替えている。

連結財務諸表作成のための基本となる事項

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社は、神鋼事務機(株)、神鋼車両販売(株)、神電エンジニアリング(株)、(株)鳥羽神鋼電機、神電ファクトリーサービス(株)、神電商事(株)、(株)アイ・シー・エス、神電機器販売(株)、Shinko Technologies, Inc.の9社である。

尚、子会社のうち、(株)セルテクノ等6社は連結の範囲に含まれていない。

非連結子会社は、資産、売上高等からみて小規模であり、連結財務諸表に重要な影響を与えていない。

連結範囲の異動状況は以下のとおりである。

①当社は、当期において、前期に連結子会社であった(旧)神電商事(株)を合併した。

②前期非連結子会社であった協進商事(株)は、協進商事(株)を存続会社として、前期に連結子会社であった中央流通(株)を合併し、商号を神電商事(株)とし、当期から連結子会社となった。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法は適用していない。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致している。

4. 会計処理基準に関する事項

棚卸資産の評価基準及び評価方法

製 品
仕 掛 品
原 材 料

有価証券の評価基準及び評価方法

有形固定資産の減価償却方法

繰延資産(試験研究費)の処理方法

引当金の計上基準

貸倒引当金

退職給与引当金

リース取引の処理方法

消費税等の会計処理方法

個別法及び総平均法による原価法

個別法による原価法

総平均法による原価法

移動平均法による原価法

主として定額法を採用している。なお、平成10年度の法人税法の改正に伴い、当期から、建物(建物附属設備は除く)については耐用年数の短縮を行っている。

これに伴う影響額は軽微である。

特定の新品の開発のために特別に支出した金額については繰延資産(試験研究費)として計上し、商法の規定に基づく期間(5年間)で均等償却を行っている。

債権の貸倒れによる損失に備えるため、法人税法の規定による限度額(法定繰入率)のほか、個別の債権についても回収可能性を検討し回収不能見込額を計上している。

期末自己都合退職金要支給額の40%

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

税抜方式を採用している。

5. 投資勘定と資本勘定との相殺消去に関する事項

段階法によっており、消去差額は「連結調整勘定」とし、原則として発生日以後5年間で均等償却している。

6. 未実現損益の消去に関する事項

連結会社間の資産の売買に伴う未実現利益は全額消去し、その全額を親会社株主が負担する方法をとっている。

7. 在外連結子会社等の財務諸表項目の換算に関する事項

在外連結子会社の財務諸表項目の円貨への換算は、「外貨建取引等会計処理基準」(昭和54年6月26日最終改正平成7年5月26日企業会計審議会報告)による方法により換算している。

8. 利益処分項目等の取扱いに関する事項

利益処分の取扱い方法は確定方式で行っている。

9. 法人税等の期間配分の処理に関する事項

連結財務諸表の作成にあたっては税効果会計は適用していないが、在外連結子会社は、税効果会計を適用している。

注記事項

| | | |
|---|------------|-----------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 30,782 百万円 | (前期 30,127 百万円) |
| 2. 割引手形 | 9,720 百万円 | (前期 9,580 百万円) |
| 3. 裏書手形譲渡高 | 164 百万円 | (前期 61 百万円) |
| 4. 保証債務 | 21 百万円 | (前期 45 百万円) |
| 5. 自己株式 | 337 株 | (前期 1,015 株) |
| 6. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引 | | |
| (1)未経過リース料期末残高相当額(支払利子込み法) | | |
| 一年以内 | 298 百万円 | (前期 303 百万円) |
| 一年超 | 636 百万円 | (前期 584 百万円) |
| 合計 | 935 百万円 | (前期 888 百万円) |
| (2)支払リース料 | 371 百万円 | (前期 383 百万円) |

重要な後発事象

当社は、平成11年2月26日開催の取締役会において決議した「1999年経営合理化計画」の一環として、本年5月に早期退職者を330名募集し、それに伴う臨時退職金約35億円を次期特別損失に計上する予定である。

セグメント情報

1. 事業の種類別セグメント情報

平成10年3月期(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

(単位:百万円)

| | 重電・汎用機器 | 電子精密機器 | 搬送機器 | 計 | 消去又は 全社 | 連 結 |
|--------------------------|---------|--------|--------|---------|------------|---------|
| I 売上高及び営業損益 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する 売上高 | 43,894 | 20,637 | 34,322 | 98,854 | — | 98,854 |
| (2)セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | — | — | (—) | — |
| 計 | 43,894 | 20,637 | 34,322 | 98,854 | (—) | 98,854 |
| 営業費用 | 42,016 | 21,483 | 33,732 | 97,232 | (—) | 97,232 |
| 営業利益 | 1,877 | ▲ 845 | 590 | 1,622 | (—) | 1,622 |
| II 資産、減価償却費 及び資本的支出 | | | | | | |
| 資 産 | 47,124 | 31,564 | 35,394 | 114,084 | — | 114,084 |
| 減 価 償 却 費 | 815 | 509 | 392 | 1,717 | — | 1,717 |
| 資 本 的 支 出 | 421 | 421 | 279 | 1,122 | — | 1,122 |

平成11年3月期(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

(単位:百万円)

| | 重電・汎用機器 | 電子精密機器 | 搬送機器 | 計 | 消去又は 全社 | 連 結 |
|--------------------------|---------|--------|--------|---------|------------|---------|
| I 売上高及び営業損益 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する 売上高 | 35,180 | 20,725 | 25,825 | 81,731 | — | 81,731 |
| (2)セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | — | — | (—) | — |
| 計 | 35,180 | 20,725 | 25,825 | 81,731 | (—) | 81,731 |
| 営業費用 | 35,065 | 21,422 | 26,674 | 83,162 | (—) | 83,162 |
| 営業利益 | 115 | ▲ 697 | ▲ 849 | ▲ 1,431 | (—) | ▲ 1,431 |
| II 資産、減価償却費 及び資本的支出 | | | | | | |
| 資 産 | 45,489 | 32,637 | 28,093 | 106,220 | — | 106,220 |
| 減 価 償 却 費 | 761 | 517 | 362 | 1,641 | — | 1,641 |
| 資 本 的 支 出 | 5,355 | 569 | 1,932 | 7,857 | — | 7,857 |

(注)1. 事業区分の方法及び各区分に属する主要な製品の名称

製品の種類・性質、製造方法、販売方法等の類似性及び当グループの売上集計区分に照らし系列化区分している。

各事業区分の主要製品は次のとおりである。

| 事業区分 | 主要製品 |
|---------|--|
| 重電・汎用機器 | 直流・交流電動機、直流・交流発電機、制御装置、誘導加熱装置、吊上電磁石、電磁クラッチ、電磁ブレーキ、ACサーボモータ、DCサーボモータ等 |
| 電子精密機器 | 航空関連電源機器、電子デバイス、自動切符販売機、乗車券印刷発行機、カラープリンタ、その他自動制御装置等 |
| 搬送機器 | フォークリフトトラック、産業車両、空港支援機材、無人車システム、搬送システム、電磁及び電動振動機、パーツフィーダ、コンベア等 |

2. 連結財務諸表規則等の一部改正に伴い、平成10年3月期についても改正後の表示区分に組み替えている。

2. 所在地別セグメント情報

平成10年3月期(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「本邦」の割合がいずれも90%を超えているため記載を省略した。

平成11年3月期(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「本邦」の割合がいずれも90%を超えているため記載を省略した。

3. 海外売上高

平成10年3月期(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため記載を省略した。

平成11年3月期(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため記載を省略した。